

普及活動情勢報告（令和3年1月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

時を戻そう！今作をふりかえって課題発見 ～米ナス経営目標面談～



面談の様子

12月22日から、JA高知県高西地区津野山なす部会全戸（12戸）を対象に経営目標面談を開始しました。

生産者に今作の振り返りをしてもらい、来作の収量目標や目標達成に向けた取り組みを聞き取りました。生産者からは草勢管理や病害虫防除など栽培に関する相談、質問が出されました。課題解決に向けた情報提供も行った結果、それぞれの戸別収量目標を設定することができました。

当課では、今後もJAと連携し、目標収量達成に向けて支援していきます。

次作の改善に向けて ～津野山ミョウガ部会目標設定面談～



面談の様子

12月22日より、津野山ミョウガ部会全戸に対して、今作の反省と次作に向けた管理改善点の検討を目的として目標設定面談を実施しました。

当課からは、新型コロナウイルスの影響で実施できなかった反省会資料の説明を行いました。なかでも、天敵実証試験の結果に関心を持つ生産者が多く、次作に活用してみたいとの意見も聞かれました。

当課は、今後も生育調査や現地検討会などを通して生産者の生産力向上に向けた支援を行っていきます。

集落営農組織間のつながりを！ ～組織間連携協議～



話し合いの様子

12月22日、中土佐町笹場地区の集会所において、集落営農組織「ささば営農組合」役員（6人）と関係機関で集落営農組織等の組織間連携について、話し合いました。

組合員からは、「他の地域から要請があっても、受ける元気がない」という声も出ましたが、水稻の作期の違う他の集落営農組織から組織間で協力することも可能との話が出ていることを伝え、実現できるような組織にならないといけないという前向きな意見も出されました。

当課では、今後の農機の整備も含めて関係機関と連携し、組織間連携がつながるよう活動を支援していきます。

ミョウガの安定生産、高収量を目指して！ ～ミョウガ生育調査の実施～



生育調査の様子

管内のミョウガにおいて、生産性アップを目指すため、ハウス内の温湿度、炭酸ガス濃度などを把握し生育に応じた栽培管理につなげる取り組みを進めています。

12月10日、須崎市の促成ミョウガ8戸の生育調査をJA営農指導員と開始しました。今年度は、定植月の違いや炭酸ガス施用の有無による比較を行っていきます。今後は生育調査結果と環境測定データを基にJA担当者と協議し、生産者にフィードバックを行う予定です。

今後も月1回の生育調査を行い、環境測定データと照らし合わせ、ミョウガの安定生産と増収のための支援を行っていきます。

次世代に続く土佐くろしおの園芸産地をめざして ～産地振興計画書（第5刊）ただ今作成中～



産地振興計画書の検討の様子

1月13日に、JA、振興センターとで、産地振興を戦略的に推進するための指針「土佐くろしお産地振興計画書」を検討しました。

計画書は、JA土佐くろしお管内農業振興連絡協議会が、産地振興にあたって関係機関が同じ目標を掲げて活動を展開していけるよう、現状と課題の整理、産地の理想像の共有、目標達成に向けた活動方針等について、3年毎にバージョンアップをしています。

当課は本協議会の事務局として、関係機関と連携しながら、産地振興計画の検討を重ね、2月22日の協議会の承認を得て、今年3月の発刊を目指します。